

# 飛躍の年に

小野町議会議長 村上 昭正



新年明けましておめでとうござい  
ます。町民の皆さま方におかれまし  
ては、輝かしい新年をお迎えのこと  
とお慶び申し上げます。

合わせて日頃より議会活動に対し、  
温かいご支援、ご協力、ご理解を賜  
り厚く御礼申し上げます。

昨年は、合併60周年の記念の年で  
あり年間を通して多彩な催しが数多  
く開催されました。「小野町60周年記  
念式典」において、東京農業大学名誉  
教授の小泉武夫先生が小野町名誉町  
民に推戴されたことは、町民皆が喜  
びに思うところであります。小泉先  
生からは、小野町発展のため、町づ  
くりにご貢献して参りたいとの申し出  
があり、大いにご期待申し上げますと  
ころであります。

また昨年は町民の皆さんにも各分  
野において、ご活躍いただきました。

特に、市町村対抗の野球、ソフトボー  
ル、福島県縦断駅伝競走大会での活  
躍や福島県少年野球選手権大会での  
小野中学校野球部の優勝など、小野  
町の名を広く県内外にPRしたいだ  
いものと感謝申し上げる次第であ  
ります。今年もさらなる躍進を願うと  
ころであります。そのためにはス  
ポーツ施設の整備、充実を図る必要  
があるのではないかと考えます。現  
在、多目的運動施設を建設しており  
ますが、町民体育館の暖房設備や多  
目的グラウンドへの陸上競技用ト  
ラックの設置、野球場の改修整備な  
ど、町全体のスポーツを向上させて  
いくためには検討を要する課題では  
ないかと思うところであります。

人口減少対策が急務になっており  
ます。人口減少は小野町だけでな  
く、日本全体が抱える大きな問題で  
あり、2040年には若年女性の流  
出により全国896自治体に消滅の  
可能性があると言われております。  
国は地方創生の名のもと各自治体に  
創生総合戦略計画の策定を指示して  
参りました。町としても、これまで  
取り組んできた人口減少対策を加速  
させる取り組みと位置付け、国およ  
び県の「まち、ひと、しごと総合戦  
略」を踏まえ、人口減少に歯止めを  
かけることに特化した戦略的計画を  
策定いたしました。これを町づくり  
のチャンスと捉え、町民の皆さま方  
と創意工夫を凝らし、真に未来に残

せる町づくりに取り組む必要性を感  
じるところであります。

議会におきましても、昨年は、議  
員間での活発な議論、議会改革や町  
づくりをテーマにした数多くの行政  
調査を実施するなど例年以上の取り  
組みを行って参りました。

また念願でありました、子ども議  
会を町、教育委員会、議会の共催  
で開催することができ、あらためて  
子供たちの町へ対する深い思いを感  
じることができました。関係各位に  
は深く感謝申し上げます。次第であ  
ります。

早いもので、我々議員の任期が一  
月末をもって満了となります。議会  
改革と称してさまざまな取り組みを  
行って参りました。まず、一年を会  
期とする通年議会の導入であります  
が、県内では只見町議会に次ぐ2例  
目であり、議会の活性化および活動  
範囲の拡大など議員の資質向上に大  
きく寄与したと感じるところであり  
ます。議会報告会や各種団体との意  
見交換会につきましても、改革の一  
環として町民の皆さま方のご協力を  
いただきながら開催できましたこと  
感謝申し上げます。また、「住  
みたい町」、「住んで良かったと思  
える町」、「魅力あふれる町」実現のた  
め、議員一同この4年間、議会活動  
にまい進して参りましたが、町民の  
皆さま方のご期待に添えなかつた  
ところも数多くあつたのではないかと

思うところであります。

自治体間競争が激化するなど地方  
が置かれる状況はますます厳しさを  
増していくと考えられます。行政、  
議会、各種団体、町民各位それぞれ  
が果たす役割を明確にし、活力ある  
町づくりのため力を合わせる時では  
ないでしょうか。飛躍の年になるこ  
とを願うところであります。今期4  
年間、議会へのご支援、ご協力に、  
ここから御礼を申し上げますとと  
もに、町民皆さまが今年一年、素晴  
らしい年となりますようご祈念申し  
上げ新年のごあいさつとさせていただきます。

## 謹賀新年

小野町議会

議長

副議長

議員

村上 昭正

久野 峻

佐藤 登

遠藤 英信

水野 正廣

宇佐見 留男

龍田 良作

田村 弘文

宗像 芳男

竹川 里志

吉田 康市

会田 明生

